



## 学校という社会

校長 本間 基史

社会 (Society) とは、共通のルールや文化を持ち、人々が相互に依存・連携して共同生活を送る組織的な集まり。と AI が教えてくれました。1年生は入学してから、2年生以上は進級して新しい担任の先生との出会いなど2か月が経ちました。

教員としての幸せは、学校という社会の中で子供たちが成長する姿をリアルタイムで感じられるということです。学力だけではなく、生活面での成長、集団の中での思いやり、規範意識など多岐に渡ります。というのも先日、兄弟学年遊びで休み時間にドッチボールをして遊んでいる姿を見て「なんて思いやりを持って、楽しそうに遊ぶんだらう。」そんな通常の学校の1コマで涙がこぼれそうになりました。

同じ場面を校庭で見守っていた主幹教諭が「校長先生、こういう場面を見ていると、本当にいい学校ですよね。」と話してくれました。「いや本当に、子供たちの笑顔にあふれ、励ましたり、頑張ったりしている姿を見て、私も感動していたんだよ。」と返しました。毎朝、校門で子供たちを出迎えてあいさつをしていると「今日は表情が暗いな・・・」「学校を楽しみにして、張り切っているな・・・」「体調が悪そうだな、あとで学級の様子も観に行こう。」と分かります。学校という社会の中で子供たちは多くのことを学び、成長していきます。

私たちが気づかないところで、友達関係で悩んだり、学習で悩んだりしていることも多々あるでしょう。しかし、学校には先生も養護教諭もカウンセラーも特別教育推進員さんもいて、たくさん相談できる大人がいます。友達もいます。

学校で生活する中で課題や困難にぶつかりながらも、課題解決する力を身に付け、修正していく。新しい知識を身に付けていけるよう「自己調整力」が育つように校内の研究を進めています。

子供たちの学習を温かく見つめ、子供の成長を我が事のように喜び、子供たちと同じように学び合う教職員を誇りに思っています。

勿論、保護者の皆様と地域の皆様と連携して一緒に津久戸小学校という社会を充実させていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 今年度の教育計画について

教務主任

令和8年度がスタートして2か月が経ちました。新しい環境で、前向きに学校生活を送っている児童が多く感じられ、職員一同大変嬉しく思っています。

さて、今年度も本校は、変わりゆく時代に対応し、児童にとってよりよい教育活動を行っていくために、以下のような方針で教育活動を推進していきます。

### ○軽重をつけて授業時数の確保

→始業式から給食を提供。4時間授業を行い、授業時数を確保します。その分、9月の暑い時期は4・5時間授業としました。軽重をつけて授業時数を確保することで、児童にとって、より効果的に教育活動を実施できるように考えています。

### ○デジタル化の推進

→「学校評価アンケート」や「ハイパーQU」をデジタル化します。児童や保護者の負担を軽減するだけでなく、教員はアンケートの結果をもとに、すぐに教育活動に反映できるようにしていきます。

いずれの教育活動におきましても、保護者の皆様のご理解・ご協力は欠かすことはできません。今年度もどうぞ温かいご支援をよろしくお願いいたします。

## 今年度の校内研究について

研究担当

「校内研究」とは、子供たちによりよい学習の機会を提供するために、私たち教員が授業改善に向けて取り組むことを指します。

津久戸小学校の学校教育目標は、「知性と教養にあふれ、たくましく前向きに生きる津久戸の子」です。昨年度の研究を踏まえ、「対話を通じた協働的な学び～自己調整しながら学習する児童を目指して～」を主題とし、学校教育目標の実現に向けて授業改善を進めています。

昨年度は教科を限定せず、研究主題に迫るために、児童が自己調整しながら学習できるようにすることを目指して取り組みました。それらの成果を踏まえ、今年度は「国語科」を中心とした対話的な学習について研究を進めてまいります。4月・5月には、全職員で研究主題の共通理解を図るとともに、各クラスにおける対話を取り入れた授業実践を紹介し合うなど、研究を推進しています。

今年度も校内研究の一環として、研究授業を3回実施する予定です。該当学級につきましては、他の学級と下校時刻が異なる場合があります。今後の学校だより等で日程をお知らせいたしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

対話は、学校生活に限らず、日常生活のさまざまな場面で必要とされ、生活をより豊かにするものと考えます。ぜひご家庭でも話題にいただければ幸いです。